

5 学生の受け入れ

進捗状況報告

より多様な学生の受け入れを可能とするため、以下のような対策を実施している。

2007年度よりアドミッションズ・オフィス入試を開始した。日本語および英語資料による読解・論述審査、面接審査からなり、形式において他学部と足並みをそろえている。2008年度も同じ形式で実施し、2年間の経験と反省を踏まえつつ、3年目以降の実施方法について再検討を行いたい。

一般入試については、改組以後に生じた問題点に対応するため、2008年度以降の選抜方法を一部変更することにした。変更点は(1)文化歴史学科は専修ごとの選抜する、(2)文学言語学科は従来どおりだが、志望専修については文化歴史学科と同様に第一志望のみとする、の2点である。なお、総合心理科学科はこれまでどおり学科単位での募集とする。以上により、より迅速で明快な合否判定を目指したい。

選抜方法の修正に合わせてカリキュラムの見直しも検討中である。同時に、全学レベルでの試験実施形態の変更に合わせて、センター利用方式に加えて関学独自方式（センター併用 英語）を導入し、選抜方法をより幅広いものとする。

学内第三者評価

入学生の選抜方法の多様化について、着実に進められていると評価できる。そのひとつのAO入試について、2年間の経験と反省で3年目の実施を再検討すると記されており、その場合は入学生の追跡調査などのデータに基づいて行われることが望ましい。その具体的方法や評価の基準なども示されることが今後、期待される。

なお、文化歴史学科が専修ごとの入試を実施することで、旧9学科を3学科体制に改めた意味が薄れるおそれはないのかについて検討が期待される。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- ・社会人学生、留学生に関する目標や課題設定がない点に留意する必要がある。